

奥の細道

出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ

春・夏・秋編

この「奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ」は、社会福祉法人宮城県共同募金会助成事業の助成を受けて作製されました。



野生植物研究所

高橋和吉



奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編

- ・ 奥の細道の位置



ブナ・コナラ・クリなどが見られる林



小深沢の橋がかかっている所

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編

奥の細道への入り口

鳴子温泉から国道 47 号線を中山平へ向かって車を走らせ、鳴子峡への出入口、大谷橋を渡ると、まもなく左手に日本こけし館入口、右手に尿前の関の看板が出てきます。そこを通り過ぎると、まもなく鳴子トンネルに入ります。鳴子トンネルを過ぎると両側に広い駐車場があります。右側の駐車場にはトイレ、ふるさとの森案内図という大きな看板があります。



ふるさとの森案内図板



ブナの大木

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編

花マップご案内ルート

今回の花マップご案内ルートはトイレ、「ふるさとの森案内図」の看板のある駐車場を出発地点とします。小深沢橋を渡り、小深沢から大深沢へかけて歩き、大深沢を通過して国道 47 号線に出ます。国道沿いを歩き大深沢橋を渡り出発地点へもどるというコースになります。

このコースは、小深沢、大深沢があり、沢へ降りたり沢から登ったりの場所になります。また、かなり長い平坦地もあり大変変化に富んだ所で、さまざまな草花を半日ぐらいかけてゆっくりと観察するにはもってこいの場所です。



駐車場入口の所にある看板



奥の細道入口の標示

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編

短縮コースとしては、大深沢へ降りる手前から、大変整備された、大深沢橋駐車場へ向かい戻るという「鳴子峡大深沢越え遊歩道」もあります。



奥の細道大深沢への標示



出羽仙台街道の標示



大深沢

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 1 ～



フキ

【キク科】原野、河岸、山地の谷間など、湿った場所に群生する雌雄異株の多年草。根茎は短く、地中枝の先端に新芽をつけ繁殖する。根茎から花茎を出し、花序ははじめ大形の鱗片に包まれて短く、花茎が伸びると管状花が集まった白色の頭花を総状につける。短い花序をフキノトウと言う。山菜の一つ。



ヤマエンゴサク【ケシ科】

山中の樹林下にはえ、全体に弱々しい。地下に球形で径1～2cmの塊茎がある。花は4～5月に咲き青紫色。



ジュウモンジシダ

【オシダ科】山林、谷川ぞいの湿った林下に多い。葉身は1回羽状に分裂し最下の羽片だけが特別に大きい。十文字羊歯の名は三羽片状の葉形によったもの。山菜のひとつ。



ニヨイスミレ

【スミレ科】山野の湿地に生える多年草。高さ5～20cmで、葉は長さ1～3cmの心形で裏面は紫色を帯びる。花は白色で1cmほどと小さく、唇弁の紫色の筋が目立つ。側弁に少し毛がある。距は特に短い。



キラソウ

【シソ科】路傍や林縁に生える多年草。全体に毛が多く、茎、葉は地面を這って広がる。葉が地面にふたをしたようにへばりつくことからジゴクノカマノフタ（地獄の釜の蓋）とも呼ばれる。また、春の彼岸の地獄の釜が開く頃に花が咲くからと言う説もある。花は長さ1cmほどの唇形で濃紫色。



奥の細道入口風景

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 2 ～



トウゴクサイシン

【ウマノスズクサ科】山地の湿った溪流沿いなどに生える多年草。日本固有種。茎の先に長柄のある対生葉を2枚出す。早春、葉柄の基部に、黒っぽい紅紫色の花を1つ咲かせる。



スミレサイシン

【スミレ科】山林内の木陰に生え高さ10cmほどになる多年草。地下茎は多肉質で太く分枝し、横に伸びて節が多い。4～5月、茎の間から花柄を伸ばし、左右相称で唇弁に紫色のすじがある淡紫色の花を少数つける



キクザキイチゲ

【キンポウゲ科】山野に生える多年草。大群落を作ることもある。4～5月、包葉の中心からまっすぐにのびる花茎を1本出し先端に淡紫色、時には白色の花を開く。がく片は花弁状で10から13枚。



バッコヤナギ

【ヤナギ科】山中の陽地に生える落葉高木。5mほどの高さになる。4～5月に2～4cmの花穂をつける。雌雄異株。



コチャルメルソウ

【ユキノシタ科】山地や谷川付近の湿地に生える多年草。ほふく枝を出して繁殖する。4～5月、高さ10～20cmの花茎をだして少数の花をつける。花弁は5枚。淡黄緑色で羽状に細かく裂けている。



奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 3 ～



ヤマツツジ

【ツツジ科】

山野に自生する半落葉低木。5～6月枝の先に赤色の花を少数散形状に開く。花冠は漏斗状で5裂し、上面に濃紅色の斑点がある。



サルトリイバラ

【ユリ科】日当たりの良い原野、丘陵などに生える蔓性の低木。雌雄異株。高さ2mほどになり、茎は節毎に曲り硬く、まばらに刺があり、分枝する。葉は互生し円形～広楕円形。葉柄の基部にある2個の托葉の先端が伸びて巻きひげとなり、ほかのものに絡みつく。新枝の葉腋から散形花序を出し、淡緑色の小さな6弁花を多数つける。果実は球形で紅熟する。葉草の一つ。



コンロンソウ

【アブラナ科】

山地の沢沿いなどの湿った場所に生える多年草。高さ30～70cmになり茎は直立し、上部でやや分枝する。茎の上部に白色の4弁花を咲かせる。



フデリンドウ

【リンドウ科】日当たりの良い山地の林内や草地に生える二年草。茎は直立し、高さ5～10cmになる。葉は蜜に対生し、柄がなく広卵形で、葉裏は赤紫色を帯びる。春、地面が枯れ葉や枯れ草に覆われているうちから、茎頂に青紫色の花を数個つける。根生葉は小さく、ロゼット状にならないので、他のリンドウとの識別は容易。蕾の形(花の閉じた形)を筆の穂先に見立てて名がつけられた。



ラショウモンカズラ

【シソ科】山地のやや日当たりの良い林内に生える多年草。高さ20～40cmになり、花茎は直立し上部に紫色で大形の唇形花を1方向に横向きにつける。



ミヤマキケマン【ケシ科】

日当たりの良い山野、田の縁などに生える越年草。高さ20～50cmほどの茎の上部に淡黄色の花を総状に20～30個つける。花は美しいが悪臭がある。毒草の一つ。

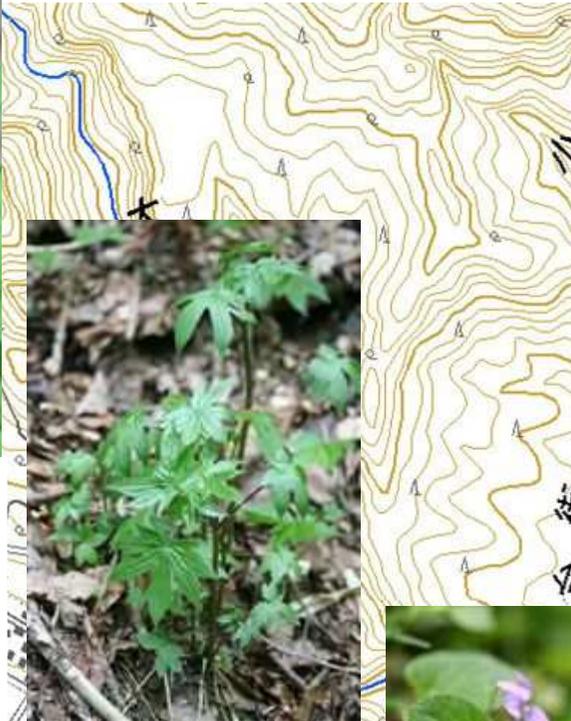
奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 4 ～



オオバタネツケバナ

【アブラナ科】

山地や原野の水湿地に生える多年草。高さ10～30cmになる。タネツケバナに似ているが小葉の数が少なく2～5対で、頂小葉が特に大きい。山菜のひとつ。



ミヤマハコベ

【ナデシコ科】山間の川辺の半日陰地に生える多年草。高さ10～35cmになる。5～7月、白い5枚の花弁を開く。花弁は2深裂して萼より長い。



オオタチツボスミレ

【スミレ科】山地に生える大形のスミレ。茎は数本そう生し、果期には高さが40cmになる。4～5月、淡紫色の花をつける。



小深沢の橋がかかっている場所



モミジガサ

【キク科】

山地の湿り気のある林内などに生える多年草。葉身は掌状で5～7に中裂し、表面は光沢がある。8～9月、茎の先端が分枝し円錐花序を出し、白色でわずかに紅紫色を帯びた管状花だけの頭花をつける。山菜の一つ。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 5 ～



クジャクシダ

【ホウライシダ科】

山中林下の地上や岩上に生える夏緑性のシダ。葉柄は光沢のある黒紫色をしている。鉢植えなどにして鑑賞される。



ヤマツツジ

【ツツジ科】

山野に自生する半落葉低木。5～6月枝の先に赤色の花を少数散形状に開く。花冠は漏斗状で5裂し、上面に濃紅色の斑点がある。



マイズルソウ

【ユリ科】

山地から高山にかけて生える多年草。5～6月。茎の先に総状花序がでて白色小花を開く。液果は半熟時には紫斑があり後で赤熟する。



シシガシラ【シシガシラ科】常緑性の日本固有のシダ。山地林下、山麓の原野、路傍等に生える。葉は二形で孢子葉は株の中心部に数本が直立する。栄養葉は株の外側に開出して叢生する。

チゴユリ

低地から山地の林内に生える小型の多年草。高さ20～35cmになり、茎は細く、枝別れせず、茎頂に長さ1～1.5cmの白色の花を1～2個下向きにつける。果実は黒く熟す。



ブナ・コナラ・クリなどが見られる林

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 6 ～



群生するマムシグサ

【サトイモ科】

低地や丘陵の木陰に生える高さ1mほどの多年草。地下球茎から直立した1本の偽茎は白斑、又は紫斑があり、マムシの胴に似ている。偽茎の先の葉の間から緑紫色～暗紫色で、白い縦縞のある仏炎苞をもった花を咲かせる。雌株の液果は秋に紅熟する。毒草の一つ。



ヤマグワ【クワ科】 浅い山や丘陵に生える雌雄異株又は同種の落葉高木。高さ10mにもなる。葉は互生し、鋸歯があり表面はざらつく。片側に深く切れ込むなど変化も多い。新枝の下部から穂状花序を垂らし淡い黄色の裸花を多数つける。花後に宿存萼が肥大してクワゴとなる。



ヤマイヌワラビ

【イワデング科】

山地に普通に見られるシダ。根茎は斜上し、葉を叢生する。葉柄は20～50cm。中軸・羽軸ともに紅紫色を帯びる。



ケマルバスミレ

【スミレ科】 山地や路傍の日当たりのよい場所に生える多年草。葉の両面に毛がある。4～5月、葉の間から花茎をのびし、白色または薄紅色の花をつける。



タニギキョウ

【キキョウ科】 山の木陰に生える多年草。地下茎は細長くて分枝し、先は立ち上がって10cm内外の地上茎となり多くの茎が立つ。4～8月、茎の上部より細長い柄をつき出して一個の白い花をつける。



コナラの多い林

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 7 ～



ツリバナ

【ニシキギ科】山地に生える落葉の低木。時には小高木。6月頃長い柄のある集散花序を出し、白～紫がかった花をつり下げる。さく果は長い柄を持ち垂れ下がる。



ケヤマハンノキ

【カバノキ科】山地に生える落葉高木。早春葉が伸びる前に開花する。雌雄同株。雄の尾状花穂は小形のものが前年の秋にできていて越冬する。



イタドリ

【タデ科】いたるところの荒地、山地、草原などに群生する高さ50～150cmにもなる雌雄異株の大形の多年草。若い茎には紅紫点があり節には、膜質の托葉がある。7～10月、花卉のない白い小花を多数つける。山菜の一つ。



ムラサキケマン【ケン科】

平地や山麓の日陰、雑木林など、やや湿った場所に生える越年草。高さ20～50cmほどの茎の上部に、紅紫色、ときに白色の花を総状に多数つける。花は美しいが悪臭がある。毒草の一つ。



オオイタドリ

【タデ科】

溪流沿いや日当たりのよい肥沃な土地、土手や原野などに生える高さ2～3mにもなる雌雄異株の多年草。若芽はタケノコ状で紅紫色を帯び、節には膜質の托葉がある。葉の裏は白い。8～9月、花卉のない小さい白花を数多くつける。



奥の細道大深沢への標示



奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 8 ～



モミジイチゴ

【バラ科】山野に生える落葉性の小低木。前年の茎の葉腋から下部に葉をつけた花茎を出し、その頂に1個の白花をつける。核果は小さく、球形に集合してたれ下がり黄色く熟す。食べると味が良い。



ウワミズザクラ

【バラ科】山野に生える高さ10mにもなる落葉高木。4～5月、小枝の先に長さ10cm、幅2cmぐらいの総状花序を出して多数の小形の白色花を密生して開く。



コナラ

【ブナ科】日当たりのよい山地に生える高さ15～20mになる落葉高木。雌雄同株で雌雄異花。葉は互生し、長楕円形または倒卵状楕円形で鋸歯がある。雄花は本年枝の下部に多数垂れ下がり、長さ5～9cmほどで黄褐色。雌花は本年枝の上部の葉脇から出て、杯状の殻斗から離れてドングリだけが落下する。



ミツバツチグリ【バラ科】

各地の山地に生える多年草。長さ10～15cmの花茎の先に、淡黄色の5弁花を集散状につける。葉は有柄で3出複葉。根茎は硬く肥厚し、かたまりとなり根生葉、花茎、匍匐枝をだす。



ゼンマイ【ゼンマイ科】林内、原野、岩場などの湿った場所に生える夏緑性の多年草。高さは60cm～1mになる。根茎は大きく、塊状で斜上し、枯れた葉柄の基部で覆われている。栄養葉と孢子葉があり、春早く、こぶし状に巻いて根茎から束生し赤褐色の綿毛をかぶっている。綿毛は成長すると脱落する。山菜の一つ。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ~ 春 9 ~



カンボク

【スイカズラ科】山地の湿った所に生える落葉低木。6月、枝先に散房状の花序を出して多数の白色花を開き、中央の小さい正常花のまわりには花冠が非常に大きい装飾花が取り巻いている。



ヒメコウゾ

【クワ科】山地に自生する落葉低木。高さ2～5 mになる。雌雄同株。製紙に利用する。



ミツバソウツギ

【ミツバソウツギ科】原野、丘陵、山麓などに生える落葉低木。葉は対生し三出複葉。5～6月、枝先に頂生した集散花序を出し白色の5弁花をつける。若芽を食用にする。



シャク

【セリ科】山地の湿地にはえる多年草。高さ80～140 cmになる。花期は5～6月。花柄は4～15個。周辺花の外側の2花弁は他より大きい。山菜のひとつ。



ウラジロヨウラク

【ツツジ科】山地に生える落葉低木。1～2 mになる。葉の裏面は白い。6～7月。枝の先に長さ2～3 cmの有毛の花柄を数本散形上に出し、筒状鐘形の花を下垂する。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 春 10 ～



ケナシヤブデマリ

【スイカズラ科】湿った林内にはえる落葉低木。高さ3mほどになる。4～5月、1対の葉がある短柄の枝に散房花序を出し、多数の白花を密に開く。花序は外側に大きな装飾花が開いて中央の正常の花を囲む。



ホオノキ

【モクレン科】山地や平地の林中に生え高さ20m以上になる落葉高木で日本特産。葉は大きい。5～6月、枝先に香りの高い乳白色の6～9弁の花をつける。花後、小さな果実が多数ある集果を結び、秋に紅熟する。薬用。



レンゲツツジ

【ツツジ科】日当りの良い草地、山林の林縁などに生える落葉低木。輪生状に分枝、葉は互生し、長楕円形。葉より先に又は同時に、枝先に径5cmほどの、斑点がある濃朱紅色～黄色の花を2～8個つける。レンゲソウのように花が輪状に集まって咲くことから名がつけられた。有毒（牛馬の忌避植物）で食べられずに残り、群落が形成されることがある。



タニウツギ

【スイカズラ科】山地に生える落葉高木で高さ2～3m。葉は対生。5～6月、小枝の先端または葉腋に散房花序を出して花をつける。花冠は紅色。方言でガザキの名がある。



トチノキ

【トチノキ科】深山の谷間に生える落葉高木で高さ30mにもなる。時に街路樹などに利用される。掌状複葉の葉は5～7枚ある。5～6月、枝先に大きな円錐花序を直立させ淡卵黄色の単性または両性花をつける。薬用。



スミレ【スミレ科】低地や丘陵、山地の日当りの良い草地などに生える多年草。花は直径1～2.5cmで色は濃紫色、淡紫色、赤紫色など変化がある。



奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 夏 1 ～



ナンテンハギ

【マメ科】 原野や山麓などの日当りの良い草地に生える多年草。ナンテンに似た2小葉が互生、巻きひげはない。山菜の一つ。



ヒヨドリバナ

【キク科】 低山の草地や林内、林縁など、日当りの良い場所に生える多年草。高さ1～2mになり、茎は直立、縮れた毛があり、紫色の細かい点がある。茎頂に白色又は淡紫色の小さな筒状花が多数集まり、散房状に花をつける。葉は対生し、細長く、先端は尖り、粗い鋸歯があるが、葉の形や大小など形態に変化が多い。ヒヨドリが鳴く頃に開花することから名がついた。



オトコエシ

【オミナエシ科】

日当たりのよい丘陵地やまばらな林内にはえる多年草。高さ1m内外。根ぎわから長い走出枝を出し、その先に苗をつけ、新しい株ができて繁殖する。8～10月、茎上部が分枝し、先端に散房上の集散花序を出し、白い小さな花を数多く密集してつける。山菜のひとつ。



ヤマジノホトトギス

【ユリ科】 山地や丘陵の林内、道端に生える多年草。茎は直立し、30～50cmほどになる。葉の基部は茎を抱き、葉腋から散房花序を出し、白地に紫色の斑点のある径2～3cmほどの花を1～3個上向きにつける。花の紋様がホトトギスの胸毛の紋様に似ているところから名がついた。若芽は山菜の一つ。



アブラチャン

【クスノキ科】 山地に生える落葉低木。高さは4m前後。早春、葉が開くよりも先に淡黄色の小さな花をつける。雌雄異株。果実は球形で直径1.5cmぐらいになる。



ムカゴイラクサ

【イラクサ科】 山地の林内など、湿気のある場所に生える多年草。高さ30～70cmになり、茎、葉の両面に刺がある。雄花は葉腋から出て純白色を帯び、雌花は茎先から穂を出す。白い刺状の花柱が目立つ。葉は尾状に伸び、葉柄のつけ根に球状のむかごをつける。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編

～ 夏 2 ～



サワアザミ

【キク科】山の溪流近くや湿気のある原野などに生える軟らかい多年草。高さ1～2mになる。9～10月、茎の上部が分岐し、その先端に淡紅紫色の管状花だけの大形の頭花を横向きにつける。山菜の一つ。



ミヤマニガウリ

【ウリ科】山地、深山に生える一年生のつる性植物。両性花株と雄性花株がある。8～9月開花。両性花は各葉腋から1個ずつ下垂。雄花は白色で立ち上がった複総状花序。



トチバニンジン

【ウコギ科】山地の木陰のやや湿った所に生える多年草。日本特産。根茎はやや太く白色で地中を横にはい節がある。葉は通常5枚の小葉からなる掌状複葉。6～8月、茎の先端が葉芯から細長い花柄を出し、散形花序をつける。薬用。



オニドコロ

【ヤマノイモ科】山地の林内、藪などに生える蔓性の多年草。雌雄異株。ヤマノイモに似ているが多肉根はなく、苦味があり食用には適さない。葉は互生。葉腋から、雄花序は直立し淡黄緑色の花を多数つけ、雌花序は下垂し白色の花被片で、基部は細長い楕円形。



ミゾソバ

【タデ科】水湿地に生える1年草。茎には下向の刺毛があり、高さ30～100cmになる。花期は7～10月、萼は5裂し、下部は白色、上部は紅紫色。



サワオトギリ

【オトギリソウ科】山地の水のある所に生える多年草。高さ10～70cm。多数枝分れる。葉には多数の大きめの明点が入り、縁には黒点がある。7～9月に黄色の花が咲く。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 夏 3 ～



オヒョウ
【ニレ科】

山地に生える落葉高木。高さ35cmほどになる。葉の先端には普通3つの尖った裂片があり、左右は著しく不同。ふちに二重きょ歯がある。春、去年の枝の上に淡黄緑色の細かい花がむらがつてつく。



オヤリハグマ

【キク科】山地林内に生える多年草。高さ30～60cm。葉は上部が3中裂する。8～10月、茎の上部で分枝し、円すい状に白色の頭花を着ける。



オクモミジハグマ

【キク科】

山地の木陰に生える多年草。高さ30～60cm。葉は中裂して掌状になる。夏、葉の集まりの中心から花茎を伸ばし、多数の白色の頭花を側生穂状に着ける。



ヤマソテツ

【キジノオシダ科】

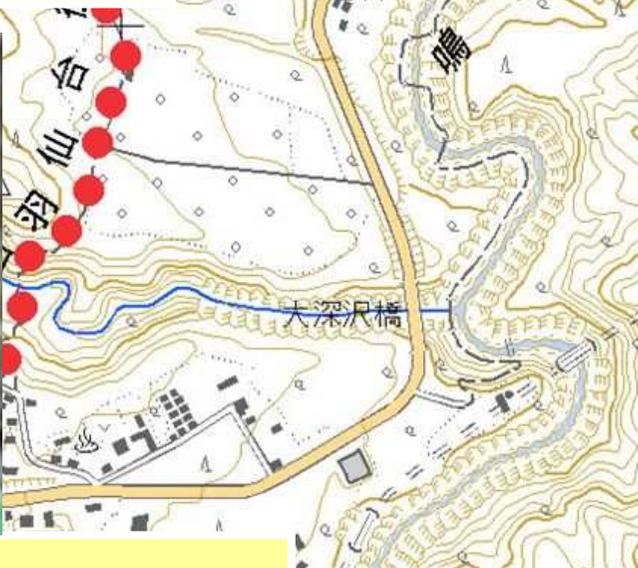
深山の樹木の下、特にブナ林の下など、日陰の湿り気の多いところに好んで生える。非本特産のシダ。胞子葉は栄養林より後から株の中心より出て直立し、1回羽状に分裂する。山菜の一つ。



コバギボウシ

【ユリ科】

日当りの良い湿地に生える。花茎は直立し、高さ30～45cm。花は7～8月に開き長さ4～5cm。花被は淡紫色。内側の脈は濃紫色で目立つ。



ニガグサ

【シソ科】

山野の少し湿った地に生える多年草。高さ30～70cm。花は7～9月。花序は長く茎の先の方に集まる傾向がある。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 夏 4 ～



ヤマハギ

【マメ科】尾根筋のアカマツ林中や林縁、刈り取り草地などに生える落葉半低木。刈り取られない場合には、高さ2m近くになることもある。葉は3小葉からなり、全体的に大きく、葉柄が長いので、葉の間が透いて見える。花序の柄は長く、葉よりも外側に出て目立つ。花色は紅紫色



ミソハギ

【ミソハギ科】原野や山のふもと等の湿った所に生える。高さは1m内外。夏に葉腋に集散花序をつけ、紅紫色の花が3～5個集まって開く。



ケナシヤブデマリ

【スイカズラ科】湿った林内に生える落葉低木。高さ3mほどになる。4～5月、1対の葉がある短柄の先に散房花序を出し、多数の白花を密に開く、花序は外側に大きな装飾花が開いて中央の正常の花を囲む。



クロバナヒキオコシ

【シソ科】やや乾いた山地に生える多年草。茎は方形で高さ50～150cm。花は8～9月、まばらな円すい花序を作って多数生じ、花冠は暗紫色。



ホツツジ

【ツツジ科】山地に生える落葉低木。高さ2mに達する。7～8月、枝の先に直立する円すい花序を出し淡紅色をおびた白色の花を多数つける。



ヤマウルシ【ウルシ科】山地や丘陵に生える落葉小高木。雌雄異株。葉は奇数羽状複葉で、若葉や葉柄は赤味がかかる。6月頃に茎頂の葉腋に円錐花序をだす。秋の紅葉が美しい。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編

～ 夏 5 ～



オオバキシミレ

【スミレ科】

低山帯上部から高山帯林縁に群生する多年草。スミレ科の中でも大きい方である。5～8月、茎上部の葉、腋から花茎を出し2～3個の黄色の花を横向きにつける。



エゴノキ

【エゴノキ科】

山地や原野などに生える落葉の小高木。5～6月小枝の先端に総状花序を出し1～6個の白花が垂れ下がって開く。方言で「ずさのき」と言い、果実を「ずさのみ」と言う。



アブラチャン

【クスノキ科】

山地にはえる落葉低木。高さ4m前後。早春、葉が開くよりも先に淡黄色の小さな花をつける。雌雄異株。果実は球形で直径1.5cmぐらいになる。



ツクバネ

【ビャクダン科】

山地の樹のあいだに生える半寄生の落葉低木で、根は他の樹の根に寄生する。高さ1～2.5m。雌雄異株。初夏の頃、枝端に散房状につき、雌花は中央の花枝の先に1個つく。花は小形で淡緑色。



リョウブ

【リョウブ科】

山林の中に生える落葉小高木。高さ3～7m。幹は茶褐色でなめらか。夏、枝の先端に6～15cmの穂状花序を出し、小さな白色の花を密につける。



タマガワホトトギス

【ユリ科】

山地の水気のある所などに生える多年草。高さ40～80cm。7～9月、茎頂と上部の葉腋に腺毛のある散房花序をつける。花弁は黄色、内側に紫褐色の斑点がある。



ジガバチソウ

【ラン科】

山地樹林下に生える。偽球茎は球形。葉は2個あって広卵形5～7月、7～20cmの花茎に10～20花をつける。

奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 秋 1 ～



オクトリカブト

【キンポウゲ科】

林中、林縁、草原などに生える。高さ18～80cm。花序は数房状総状で8～10月にかけて紫色の花が咲く。



アキノキリンソウ

【キク科】日当りの良い山地に生える多年草。高さ30～60cm。夏～秋にかけて茎先に穂状となって頭花が多数つく。花冠は黄色。



ムシカリ

【スイカズラ科】

山地にはえる落葉小高木2～4m。4～5月、葉が開きはじめかけるころ、枝生に散房花序をつける。



センブリ

【リンドウ科】

日当りのよい草地などに生える高さ20～25cmになる二年草。茎は直立して分枝し、暗紫色を帯びる。葉は対生し、綿状楕円形。枝先や葉腋に円錐花序をだし、白色で紫色の条線のある小花をつける。全体に強い苦味があり、「千回振りだしてもまだ苦味がある」と言う意味で名がつけられた。当薬(トウヤク)の別名もあり「病によく当たる」の意味。薬草の一つ。

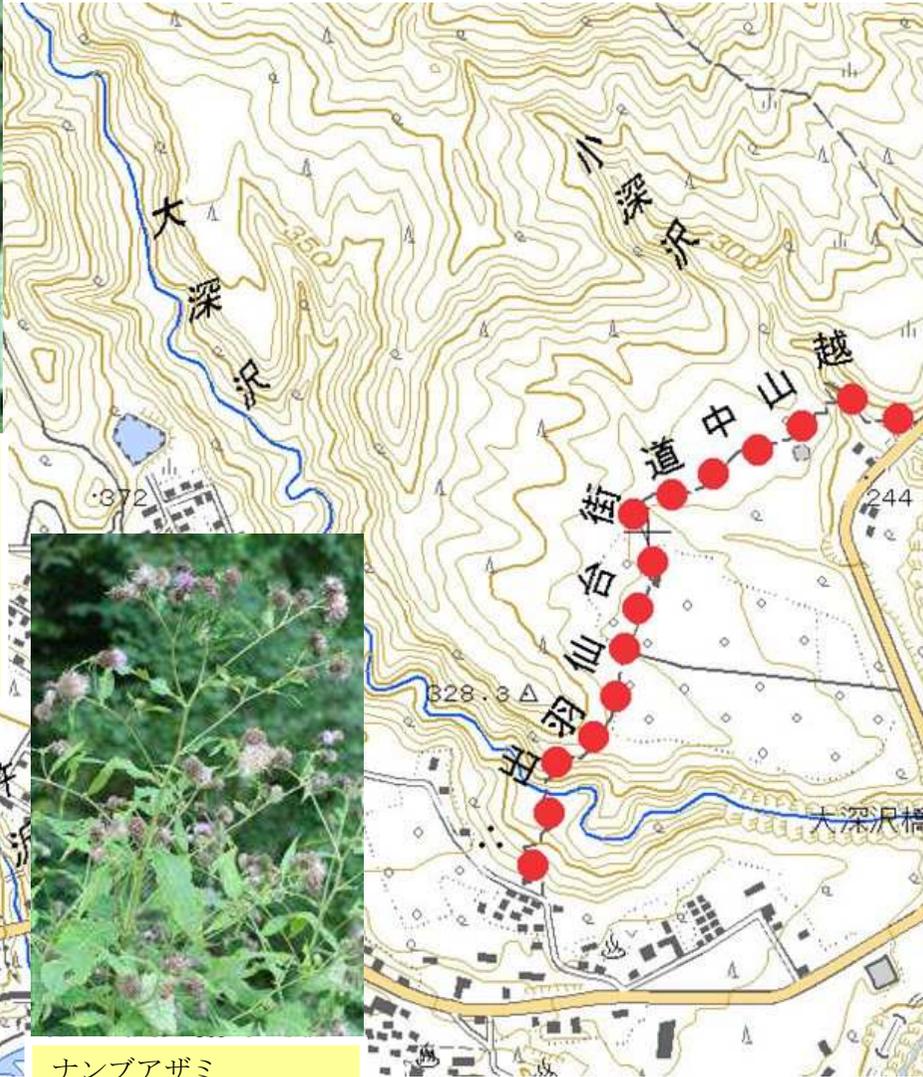
奥の細道出羽仙台街道中山峠の四季・花マップ春・夏・秋編 ～ 秋 2 ～



タマブキ

【キク科】

山の木陰に生える多年草、高さ50～140cm。葉腋にはムカゴを作る。8～10月、円すい花序を作って多くの頭花をつける。



サワアザミ

【キク科】

山の溪流近くや湿気のある原野に生える軟らかい多年草。高さ1～2m。9～10月、茎の上部が分岐し、その先端に淡紅紫色の管状花だけの大形の頭花を横向きにつける。山菜の一つ。



ナンブアザミ

【キク科】

山地に生える多年草、高さ1～2m。根出葉は花時にはない。8～10月、頭花を多数枝の先につける。片は反曲開出して粘着しない。



大深沢から